

それは走ることで多くの情報を集める。

それはつながることで多くのインテリジェンスを纏う。

そこにはコネクティッドカーが描く未来がある。

コネクティッドカーとヘルスケア-

高齢化が進む日本において、死亡交通事故を起こした高齢者のうち

約半分が認知機能低下者であるというデータがある。

この社会課題の解決に向けてコネクティッドカーが貢献できることはないだろうか。

クルマから得られる加減速、ブレーキ操作などの運転挙動データ、（GPS、速度、加速度、角速度、ブレーキペダルなどの CAN データ）走行動画データ（前方動画、車内動画）などをかけあわせて

一時不停止、（信号の）急停止、センターラインオーバーなどの“危険運転”（急発進、急停止、急旋回、迷う、遅いブレーキ、一時不停止、信号無視、ウィンカー不表示）を検知する

アルゴリズムを NTT データは開発した。

さらに、ここで得た運転に関するデータと、

年齢、性別、体調や病歴などの健康データをもとに

脳健康度、つまり認知機能の低下を早期検知するためのアルゴリズムも開発中だ。

将来的には運転以外の高齢者の様々な生活シーンの中から（購買行動や、電気やガスの消し忘れ、戸締まり、重複会話などの高齢者の行動あるある）

脳健康度を推定できる仕組みを確立することで

様々なリスク回避につなげていきたいと考えている。

コネクティッドカーを起点にしてヘルスケアの質を高めるために

ITができることをNTTデータは探し続ける